

導水管 早期更新が必要



水谷市長に答申を手渡す南二三吉委員長ら網走市導水管漏水事故調査委員会

今年2月に発生した大规模漏水の引き金となつた導水管破断事故の原因を特定する網走市導水管漏水事故調査検討委員会（委員長・南二三吉大阪大学教授）は21日、第3回委員会を開き、事故原因の推察と今後の対策も盛り込んだ答申をまとめ、水谷市長へ提出した。

（今村）

同委員会は事故原因一画のあり方について提
出を明し、今後の導水
管の維持管理や预算計
算、破壊力学や溶接強度方
学を専攻する南教授を主
はじめ、厚劳省技师会議
学審議会水道部会会員等
を聞き、事故原因の推察と今後の対策も盛り込んだ答申をま
とめ、水谷市長へ提出した。

調査結果を市長へ答申

そこに事故当時の撤去されたことにより、管自体の強度が低下して臨界点を突破、破断した。一方で、周辺の導水管を切り出し、強度試験などを行った結果、管自体の強度は使用に耐え得る設計基準強度を満たしており、健全度は「問題ない」として

が委員会を務めた。管の空洞は、管の断面が、管の破断は、10年以上前に極めて小さい漏水量が起き、管周辺の土砂を少しづつ変形させ、管を覆う土の中に空洞をつくつてた——仮定。その上で、空洞は経年変化と共に大きくなり、管を支える土砂が消失。管の自重と内部水压による水位差が、管の内側に作用する水頭をもたらす。

四

新規の開拓や電力供給の増強、また水道設備の導入、修繕等による間の布設等をなすべき対策を順次実施しており、同市議会は「市の対策は三」としている。

高岡市と蓬莱山中腹に水源を結ぶ導水管は、第一水源地と第二水源地の2路線があり、導管の延長は62.36kmである。このうち、25.59kmは新しい管に更

2度の大規模な断水事故を受け、今後の導管維持管理と再発防止対策については①漏の早期発見対策②導管腐食防止対策③早急に実施する方針を定めた。また、新規区間では、今後も漏の早期発見対策などを徹底するとして、漏が一、漏水が起きて回のような破壊事故が起る可能性があることを示す。また、断水が起きてしまっては、工事の遅延や費用の増加などの問題が生じる。したがって、早期更新の必要性を年々改めて求めており、市による導管更新は、当たる限りは、市はこれまでの調査結果などを受け、常設検出器に上る莫大な費用を負担するが、これは、施工当時の苦心を考慮して、施工段階で行うべきである。

今村

毎日新聞
2013年10月22日

北海道新聞
2013年10月22日

読売新聞
2013年10月22日

毎日新聞
2013年10月22日

北海道新聞
2013年10月22日

読売新聞
2013年10月22日